



TITLE:

中國文學報既刊總目(1954年10月第一冊 - 1960年4月第十二冊)

AUTHOR(S):

CITATION:

中國文學報既刊總目(1954年10月第一冊 - 1960年4月第十二冊). 中國文學報 1960, 12: 1-4

ISSUE DATE:

1960-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/176732>

RIGHT:

中國文學報既刊總目

(1954年10月第一冊～1960年4月第十二冊)

1 總 記

虚 字 考

伎樂源流考

紹介：人民共和國に於ける世界文學選讀書目

書評：李長之「中國文學史略稿」林庚「中國文學簡史」

書評：魚返善雄・高田淳共譯オディル・カルタンマルク・ゲキエ「中國文學史」

書評：グレン・バクスタ「中國文學」陳世驥「中國文學」小川環樹「中國文學」

書評：斯波六郎「中國文學に於ける孤獨感」

書評：斯波六郎「中國文學における孤獨感」

書評：王力「漢語詩律學」

書評：張相「詩詞曲語辭匯釋」

書評：彭楚南譯N・I・コンラッド「論漢語」

青 木 正 兒 4

濱 一 衛 9

都 留 春 雄 2

荒井健・一海知義・清水茂・高橋和巳・村上哲見 4

島 田 久 美 子 7

吉 川 幸 次 郎 8

入 矢 義 高 2

福 永 光 司 9

小川環樹・入矢義高 9

入 矢 義 高 1

清 水 雄 二 郎 2

2 先秦文學

書評：E・パウンド「詩經」英譯

左傳の書きかた一その文學的側面について一

バートン・ワトソン 3

バートン・ワトソン 7

3 漢代文學

項羽の垓下歌について

漢の高祖の大風歌について

書評：吉川幸次郎「項羽の垓下歌について」「漢の高祖の大風歌について」

賈誼の賦について

史記にあらわれた司馬遷の因果應報の思想と運命觀

文學としての孔子世家

書評：賀次君「史記書錄」

推移の悲哀一古詩十九首の主題一(上)(中)

吉 川 幸 次 郎 1

吉 川 幸 次 郎 2

桑 原 武 夫 4

金 谷 治 8

今 鷹 眞 8

バートン・ワトソン 2

神 田 喜 一 郎 10

吉 川 幸 次 郎 10, 12

4 三國晉南北朝文學

阮籍の詠懷詩について(上)(下)

六朝文學に現はれた山水觀

「賦得」の意味について

文選挽歌詩考

陸機の傳記とその文學(上)(下)

吉 川 幸 次 郎 5, 6

小 尾 郊 一 8

斯 波 六 郎 3

一 海 知 義 12

高 橋 和 巳 11, 12

陸機の生涯と「文賦」制作の正確な年代

潘岳論

西晉の詩人張協について

歸去來の辭について

書評：王瑤編注「陶淵明集」

書評：葉笑雪「謝靈運詩選」

劉勰「文心雕龍」文學論の基礎概念の検討

書評：斯波六郎「文心雕龍原道篇札記」「文心雕龍札記(白)」

5 唐五代文學

新撰類林抄校讀記

書評：吉川幸次郎・桑原武夫「新唐詩選續篇」倪海曙「唐詩的翻譯」

盛唐詩人と前代の詩人一盛唐に於ける文學論の一面—(上)(下)

王維の前半生

書評：チャン・インナン、レウィス・ウォルムスレイ「王維の詩」英譯

李白の樂府について

書評：王瑤「李白」林庚「詩人李白」武部利男「李白小傳」

書評：黃錫珪「李太白年譜」詹鏐「李白詩文繫年」

杜詩の對句についての一考察

杜甫「秋興八首」序說

杜甫「登岳陽樓」の詩について—「吳楚東南坼，乾坤日夜浮」考—

王梵志について(上)(下)

書評：近藤春雄「長恨歌傳について」

元稹の豔詩及び悼亡詩について

沈亞之と小説

柳宗元の生活體驗とその山水記

書評：施子愉「柳宗元年譜」

賈島

李賀の詩—特にその色彩について—

書評：石川一成「李長吉の色彩感覺」李嘉言「李賀與晚唐」「詞的起源與唐代政治」「李賀詩校釋」上尾龍介「苦吟と象徵」「李賀と孟郊」「夜の詩人」

書評：荒井健注「李賀」葉葱奇編訂「李賀詩集」

杜牧と傳奇

李義山の無題詩

溫飛卿の文學

書評：夏承燾「唐宋词人年譜」

陳海	世知	驪譯	8
一高	橋和	巳	7
一海	知	義	7
吉岡	義	豐	6
一海	知	義	6
高木	正	一	12
高橋	和	巳	3
吉川	幸次	郎	3

小川	環	樹	11
清水		茂	3
伊藤	正文		8, 9
入谷	仙介		11
バートン・ワトソン			11
島田	久美子		9
福永	光司		4
島田	久美子		10
高木	正一		1
黒川	洋一		4
黒川	洋一		6
入矢	義高		3, 4
花房	英樹		2
山本	和義		9
内山	知也		12
清水		茂	2
寛	文	生	10
荒井		健	10
荒井		健	3
荒井		健	7
興膳		宏	12
清水		茂	1
鈴木	虎雄		6
村上	哲見		5
清水		茂	5

教坊記辨附望江南菩薩蠻小考	村	上	哲	見	10
燭背・燈背ということー讀詞瑣記ー	村	上	哲	見	1
書評：周紹良「敦煌變文彙錄」	入	矢	義	高	5
書評：蔣禮鴻「敦煌變文字義通釋」	入	矢	義	高	11
紹介：李後主の詞に關する討論	村	上	哲	見	7
書評：A・ホフマン「李煜の詞」「春花秋月」	村	上	哲	見	2

6 宋代文學

書評：錢鍾書「宋詩選註」	小	川	環	樹	10
書評：孫楷第「論中國短篇白話小説」葉德均「宋元明講唱文學」	小	川	環	樹	1
書評：胡忌「宋金雜劇考」	岩	城	秀	夫	8
詩における比喩の工拙と雅俗ー蘇東坡の場合ー	小	川	環	樹	2
書評：歐小牧「愛國詩人陸游」	小	川	環	樹	7

7 金元文學

文學としての「董西廂」(上)(下)	田	中	謙	二	1, 2
書評：顧學頤選註「元人雜劇選」	入	矢	義	高	8
紹介：關漢卿研究	田	中	謙	二	12
書評：影弘治刊本「西廂記」王季思校注「西廂記」 吳曉鈴校註「西廂記」王季思「從鶯鶯傳到西廂記」	田	中	謙	二	4
明七子の先聲ー楊維禎の文學觀についてー	前	野	直	彬	5

8 明代文學

王世貞の古文辭説よりの脱化について	松	下		忠	5
袁中郎の性靈説	松	下		忠	9
書評：人民文學出版社「水滸」作家出版社「水滸」 人民文學出版社「水滸全傳」	清	水		茂	1
書評：R・アーウィン「水滸傳の發達史」	小	川	環	樹	3
明の宮廷と演劇	岩	城	秀	夫	1
書評：八木澤元「明代劇作家研究」	岩	城	秀	夫	11
紹介：最近の中國における琵琶記論争	岩	城	秀	夫	6
戯曲荊釵記はいかに改作されているか	岩	城	秀	夫	6
「金瓶梅詞話」所引の寶卷について	澤	田	瑞	穂	5
書評：J・J・L・ドイフェンダク「中國の神曲」	前	野	直	彬	2
書評：ビショップ「三言の研究」	小	川	環	樹	5
書評：馮夢龍編著顧學頤校注「醒世恒言」	田	中	謙	二	6

9 清代文學

紅樓夢の構成について	加	藤	知	彦	4
對人稱呼の使用における「正格」と「破格」についてー「紅樓夢」における文體論的研究ー	山	口	明	子	11

紹介：紅樓夢研究をめぐる批判討論の経過と論點

村 上 哲 見 2.

10 現代文學

書評：王瑤「中國新文學史稿」

相 浦 杲 1

書評：尾坂徳司「中國新文學運動史」

島 田 久 美 子 8

魯迅の小説の一側面—主として作品「藥」について—

相 浦 杲 10

書評：人民文學出版社「魯迅全集」増田渉・松枝茂夫・竹内好編「魯迅選集」

尾 崎 雄 二 郎 6

資料：藤野先生小傳

藤 野 恒 道 4

〈子夜〉について

山 田 富 夫 9

茅盾文學序説—「腐蝕」を中心として—

吉 田 富 夫 12

書評：加藤平八譯茅盾「東洋のリアリズム」

谷 友 幸 11

紹介：胡風批判の経過とその論點

太 田 進 3

書評：「浦江清文録」

清 水 茂 11

「家」について —巴金の小説意識についての一考察—

下 條 一 誠 11

「太陽照在桑乾河上」をめぐつて

島 田 久 美 子 5

紹介：丁玲批判について

相 浦 杲 8

「百家争鳴」その後

入 矢 義 高 6

11 比較文學

書評：太田青丘「日本歌學と中國詩學」

船 津 富 彦 9

「女仙外史」と幸田露伴の「運命」

三 木 克 巳 3

12 日本漢文學史

隠れたる批評家—清田儋叟の批評的業績—

中 村 幸 彦 4